

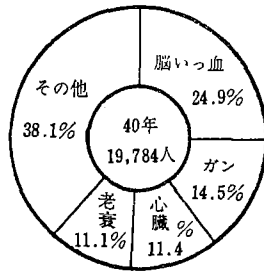
112. 死因別死亡者数 (1)

昭和9～11年平均の平均死亡率は(人口1,000人に対する割合)は18.9人(全国平均17.5人)であったが、戦後急速に低下し、昭和29年以降10人以下となり、40年には7.3人(全国平均7.1人)となった。

全国平均との差は縮小したものの、なお0.2ポイント本県が高くなっている。

グラフは死因別構成をみたもので、脳いっ血24.9%、ガン14.5%、心臓疾患11.4%、老衰11.1%の順となっている。前年に比較して脳いっ血、ガンの減少、心臓、老衰の増加が目立っている。

死因別死亡者の構成



死因	昭和38年	昭和39年	昭和40年
総数	18,353	18,600	19,784
呼吸器系の結核	549	505	507
その他結核	23	42	33
梅毒およびその続発	37	37	31
腸コレラ	-	1	-
赤痢	25	13	17
紅熱およびレンサ球菌性口炎	-	-	-
シブシブ	2	-	1
百日咳	1	-	1
髄膜炎菌感染症	3	3	2
急性灰白髄炎	1	-	1
麻疹	11	19	15
疹チフスおよびその他のリケッチア	1	-	-
マラリア	-	-	-
伝染性および寄生性として分類されたその他の疾患	89	94	90
悪性新生物	2,597	2,850	2,874
性および性質不詳の新生	144	125	137
糖尿病	105	98	129
貧血	33	30	44
中枢神経系の血管の損傷	4,752	4,769	4,930
髄膜炎	28	31	26
リウマチ	18	19	18
慢性リウマチ性心臓疾患	119	113	109
動脈硬化症および変性心臓疾患	1,495	1,524	1,744
その他の心臓疾患	346	345	406

厚生省大臣官房統計調査部調

112. 死因別死亡者数 (2)

死因	昭和38年	昭和39年	昭和40年
高血圧性心臓疾患	350	343	384
その他の高血圧性疾患	194	187	213
インフルエンス	8	9	229
肺炎	626	617	799
気管支炎	159	155	198
胃および十二指腸の潰瘍	304	255	254
虫垂炎	26	28	22
腸閉塞およびヘルニア	95	88	83
胃炎、十二指腸炎、腸炎および大腸炎	353	376	316
肝硬変	177	151	183
腎炎およびネフローゼ	304	266	257
前立腺肥大症	16	20	17
妊娠、分娩および産褥の合併症	47	41	48
先天性奇形	105	106	122
出生時の損傷、分娩後窒息および肺不全	51	51	80
新生児の感染症	108	106	95
その他の新生児固有の疾患および性質不明の未熟児	419	378	359
精神病的記載のない老衰ならびに診断名不明確および不明の原因	1,997	2,048	2,199
その他すべての疾患	1,324	1,303	1,397
自動車事故	422	473	496
その他および戦争	516	590	574
自殺	342	347	314
他殺	31	44	30

113. 理、美容所、旅館、公衆浴場等施設数

各年12月31日現在

年	理容所	美容所	普通旅館	公衆浴場	温泉利用	興行場	クリーニング所
昭和34年	2,587	1,301	1,244	353	29	132	795
35	2,663	1,369	1,312	350	32	158	812
36	2,737	1,482	1,077	366	36	157	894
37	2,818	1,574	1,136	373	39	155	893
38	2,936	1,713	1,603	378	41	144	951
39	3,094	1,909	1,268	387	46	132	1,064
40	3,263	2,088	1,370	417	49	126	1,212

環境衛生課調 注) 38年の普通旅館にはホテル、旅館および簡易宿泊営業を含む。